

観音寺中学校 道徳通信 5月号

新年度がスタートし、1ヶ月が経ちました。校舎の窓から見えていた満開の桜はいつの間にか青々とした新緑へと変わり、季節の移ろいを感じます。5月は体育大会や中間テストがあり慌ただしい日々が続きますが、時には立ち止まってみたり振り返ってみたりしてもいいかもしれませんね。

『朝市の「おはようございます」』

朝市に向かっていた「私」は、商店街の通りで、小学生の男の子に「おはようございます。」とあいさつされます。男の子が、道で会っただけの「私」を対等に見て、敬意を表してくれたことがたまらなくうれしくなり、「私」も敬意をこめてあいさつをしました。子どもたちもりっぱな町の一員です。それを思い起こさせてくれた「おはようございます。」になりました。

「私」の体験から、相手の人格を認め、相手に対して尊敬や感謝を表したものがあいさつであることを理解し、どんなあいさつが気持ちがよいかを考え、自分たちなりのあいさつ3原則を考えました。

○授業を通しての感想(生徒記述より)

- ・私はこれまで、あいさつをすることは大切だと思っていたけれど、相手に対して笑顔や明るく、気持ちが伝わるようになどを考えてしていなかったから、これからはそれらを気をつけるようにして、もっとあいさつを楽しいものにしていきたい。
- ・あいさつはただ単に「おはようございます」と言うだけでなく、気持ちがこもっているからこそ、「あいさつ」が作り上げられているということに気づくことができました。これから生きていく中であいさつを何百回もすると思うけど、これからも気持ちや尊敬もこめてあいさつをしていきたいです。
- ・あいさつをすることでより絆が深まると思うし、今日の授業を受けて、あいさつに力をいれてみようと思いました。私の中でのあいさつ3原則を大事にします。

○生徒の考えたあいさつ3原則(生徒記述より)

・目を見て	・元気	・立ち止まって	・明るく	・明るく
・聞こえる声で	・やさしく	・目を見て	・目をみて	・大きな声
・誰にでも	・はきはきと	・元気よく	・聞き取りやすく	・笑顔

返信をありがとうございます。～道徳通信4月号の返信より～

- ・道徳学習を通して、自分自身と向き合い、客観視することで、自己像を思い描くことができ、より一層、自己肯定感が高まるのではないかと思います。そして、より他者を理解し互いに尊重し合うことに繋がると思います。自分自身を大切に思うことから他者に対する思いも自然に育まれると思うので、日々の生活で意識して取り組みたいです。
- ・道徳と言うものは言葉で伝えるよりも、大人の姿勢を見ることで心に訴えかける方が多いように思います。日本人は本音と建前を使い分ける文化があると思いますが、近年は道徳とかけ離れた事件社会環境が多くあるように思います。その矛盾を抱えて生きる子供たちには道徳の授業によって反発を覚えることも少なくないと思います。道を教えるのではなく、人生の意味を教える哲学の時間にしてはいかがかと思います。

- ・道徳は正しい答えを見つけるのではないという所が印象に残りました。色々な人の意見をきいて、自分なりに考える力をつけれる人間になって欲しいと思いました。
- ・感想はとても立派です。行動が伴うようになれば、きっと学びの意味があるのだろうと思います。
- ・子ども達の考えにふれることができ自分自身も考えるきっかけをもらっている気がします。今年もたくさん学びを期待しております。

ご返信、ありがとうございました

ご感想やご意見がございましたら、LEBER（リーバー）のアンケート「返信欄」にてお気軽にご回答ください。たくさんのご返信をお待ちしております。